

登山月報



ブロード・ピーク(8,051 m)



第3回スピードジャパンカップ/第1回スピードユース選手権 亀岡大会	2
ブロック別研修会報告	5
新連載 Enjoy Climbing	6
新刊図書紹介	7
C A S 仲裁判断を受けて今後に向けたご報告	8
山の自然環境を考える(その2)	9
令和3年度 収支予算書	10
令和3年度事業計画	11
J M S C A、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

第3回スピードジャパンカップ/第1回スピードユース選手権 亀岡大会

スポーツライミングスピード競技は、今年よりユース選手権を追加。3月6日の午前中に第1回スピードユース日本選手権(SYC2021)、午後に第3回スピードジャパンカップ(SJC2021)を実施。SJCの第1回目は前日雪が降る寒波の中、第2回は強風の影響を受けるなど、0コンマ1秒を争う競技としては同じ環境下(室内)での実施が望ましく、今回は昨年竣工した京都府亀岡市の「サンガスタジアム by KYOCERA グラビティリサーチ」で開催した。今回もCOVID-19感染防止対策として健康チェック、PCR検査、無観客、3密防止、消毒の徹底を実施。

参加選手はCJC2021をパリフォーマット(2種目)で予定していることもあり、いつもの選手の参加がなかったが、ユースからの参加、オリンピック代表選手の高いパフォーマンスが見られた。

[参加]	SYC	ジュニア	男子 9	女子 3
		ユースA	男子 11	女子 9
		ユースB	男子 10	女子 6
	SJC		男子 23	女子 14
		(*ジュニア、ユースA 男子18、女子10が参加)		

Report 1 競技

この競技、他のスピード競技以上に、ミスの影響が多い。女子決勝ラウンド、ビッグファイナルには野中生萌と野口啓代が進出。野口、野中ともに自己ベストを更新。特に野中は予選で日本記録8.32秒に迫る8.33秒を記録。ビッグファイナルでは日本記録が期待されたが、出だしをミス(スリップ)し、野口が10.29秒の落ち着いた登りで優勝を勝ち取る。

男子では、榑崎智亜が決勝トーナメント初戦でスリップするが持ち直し通過。圧巻は、ユース世代の竹田創、安川潤が追いあげ中、2/1ファイナルで5.79秒、ビッグファイナルで5.72秒と日本記録を立て続けに更新する登りで優勝を勝ち取る。

今回、ホールドのショートカットなどのテクニックに加え、壁を駆け上る姿は脚力のパワーアップを感じ、見事なパフォーマンスだった。

男子				
SJC2021				
順位	No.	氏名	Average	Best time
1	M005	榑崎 智亜	6.60	5.72
2	M018	竹田 創	6.64	6.47
3	M010	安川 潤	6.93	6.51
4	M008	百合草碧皇	7.23	6.89
5	M001	北見 宗和	7.11	6.53
6	M020	三田 歩夢	8.02	7.41
7	M004	阿部 央彦	8.81	7.84
8	M023	上村 悠樹	8.05	8.01
9	M015	梶 晃悠	8.14	7.19
10	M021	竹中 翔	7.58	7.54
11	M002	大政 涼	7.22	6.60
12	M019	浅見 陽樹	8.25	8.20
13	M016	平澤鼓太郎	8.85	8.42
14	M007	大賀 羽玖	8.59	7.98
15	M003	本明 優哉	8.29	7.36
16	M014	山本 恭也	8.31	8.02
17	M013	真鍋 竜	10.66	8.62
18	M006	森本 治誉	8.67	8.67
19	M012	原田 剛瑠	8.84	8.83
20	M017	佐々木健惺	9.07	8.89
21	M022	藤野 柊斗	10.49	10.32
22	M011	戸田 祐敬	10.71	10.71
23	M009	松嶋 慧	12.72	12.36
SYC2021 ジュニア				
1	MJ08	竹田 創	7.31	6.70
2	MJ07	安川 潤	6.89	6.35
3	MJ02	大政 涼	7.29	6.82
4	MJ04	梶 晃悠	8.34	7.28
5	MJ06	本明 優哉	7.96	7.68
6	MJ03	森本 治誉	8.88	8.23
7	MJ05	百合草碧皇	8.35	7.40
8	MJ01	竹中 翔	8.67	7.71
9	MJ09	原田 剛瑠	11.01	9.83
SYC2021 ユースA				
1	MA04	藤野 柊斗	7.11	6.72
2	MA09	真鍋 竜	9.04	7.47
3	MA03	三田 歩夢	8.31	7.74
4	MA06	大賀 羽玖	9.02	7.82
5	MA07	佐々木健惺	11.01	9.05
6	MA02	上村 悠樹	8.33	7.46
7	MA10	浅見 陽樹	9.12	8.49
8	MA11	阿部 央彦	9.65	8.44
9	MA08	山本 恭也	9.26	9.24
10	MA01	本川 慶真	10.46	9.83
11	MA05	竹村 比呂	16.09	16.09
SYC2021 ユースB				
1	MB05	杉本 侑翼	7.16	6.98
2	MB02	谷井 和季	7.36	7.07
3	MB01	古屋 生吹	9.25	8.02
4	MB04	田淵 幹規	8.20	7.71
5	MB09	田中 健太	11.18	9.69
6	MB03	上柿 銀大	9.79	9.49
7	MB06	滝口 紘生	10.76	10.26
8	MB08	岡山 直椰	7.96	7.85
9	MB07	松下 歩叶	12.40	10.54
10	MB10	片岡 未来	13.58	13.15

女子				
SJC2021				
順位	No.	氏名	Average	Best time
1	W002	野口 啓代	9.35	8.68
2	W009	野中 生萌	9.83	8.33
3	W004	倉 菜々子	9.21	8.94
4	W001	林 かりん	10.87	9.58
5	W006	竹内 亜衣	11.15	10.79
6	W014	滝口 萌	11.14	10.48
7	W010	二宮 凜	13.58	11.49
8	W011	鈴木可菜美	11.34	10.68
9	W008	佐々木里花	13.26	12.17
10	W013	樋口 結花	12.42	12.23
11	W005	西脇 千夏	12.45	12.44
12	W007	相原麻菜美	12.58	12.42
13	W003	多月萌々菜	12.74	12.46
14	W012	高橋 心暖	12.62	12.54
SYC2021 ジュニア				
1	WJ01	滝口 萌	10.99	11.03
2	WJ02	二宮 凜	11.34	11.27
3	WJ03	相原麻菜美	13.44	11.44
SYC2021 ユースA				
1	WA06	鈴木可菜美	11.78	10.90
2	WA05	林 かりん	10.29	8.86
3	WA02	竹内 亜衣	11.56	11.40
4	WA09	松浦くるみ	13.29	12.91
5	WA08	高橋 心暖	13.49	13.06
6	WA04	多月萌々菜	13.13	11.33
7	WA03	佐々木里花	13.86	13.07
8	WA07	西脇 千夏	13.73	13.27
9	WA01	齊藤 小夏	15.04	14.54
SYC2021 ユースB				
1	WB01	河上 史佳	9.98	9.44
2	WB02	関川 愛音	10.69	9.88
3	WB03	藤村 侃奈	13.18	11.36
4	WB05	武石 初音	12.91	11.80
5	WB06	松田 佳歩	14.02	13.16
6	WB04	野間みな実	13.77	13.18





2. メディア (取材・クリッピング)、Youtube

◎取材：23社 記者 会場17名 オンライン15名
 フォト会場 9名
 TV 会場 3名 オンライン 4名

◎クリッピング：TV 6番組、Web 33ページ
 NHKサタデースポーツ、NTV Going!
 TBS S1、TX スポーツウォッチャー
 EX サンデーLIVE、EX GET SPORTS



◎Youtube



14:30 249 (女子予選)
 15:30 279 (男子予選)
 16:20 355 (女子決勝)
 17:23 532 (男子決勝)

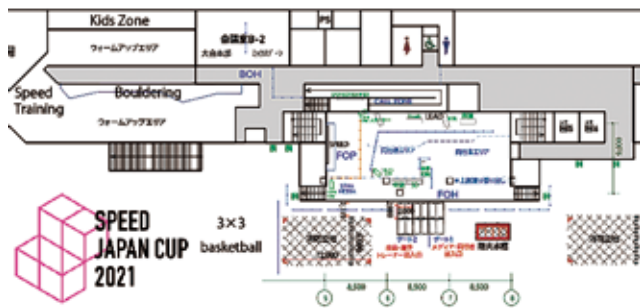
Youtubeの視聴は、BJCほどではありませんが、男子決勝は去年の倍となりました。無観客は続いています。日本新記録の更新、自己ベスト更新など選手の真摯に競技に取り組む姿は、Youtubeなどを通じて伝わったと感じています。

開催に当たっては、コロナ禍であります京都府、亀岡市、ビバ&サンガ、グラビティーリサーチ、京都府山岳連盟、皆様の理解と協力を頂き成功裏に終えることができました。また知事、市長の来場、観戦を頂き新しいことへの理解、取り組む文化を感じました。改めて関係者の皆様の御努力に対して、深く敬意を表します。

(村岡正己)

Report 2 運営

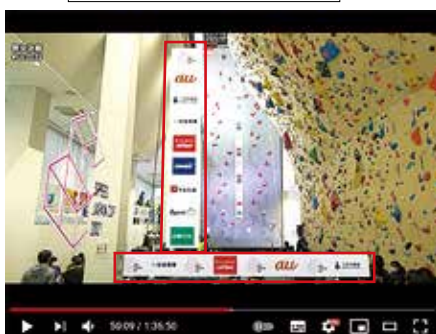
1. 会場レイアウト、中継対応



会場



中継無観客対応
 スポンサー
 ビジュアルアップ



各カテゴリーの間にスポンサーのロゴを画面に露出。

Report 3 開催地コメント

京都で初のジャパンカップ SJC・SYC 2021 亀岡大会

(一社) 京都府山岳連盟

大会 副サービスマネージャー 奥井 健吾

近畿圏では近年ほとんど開催がなく、京都でも初となるジャパンカップとあり、私を含め連盟スタッフ全員が慎重に準備・運営にあたったSJC・SYC 2021 亀岡大会。

緊急事態宣言が発出される中で大会準備(開催1週間前に京都府は解除)を進めることとなり、スタッフはもちろん、来賓を含め、来場するすべての関係者へ大会前後14日間の健康観察およびPCR・抗原検査受診の要請、また屋内となる会場の収容人数・換気能力の計算を行いながら、選手やスタッフ動線的设计がされ、「コロナに感染しない・させない」ということが徹底された中でのコンペ開催を同時に背負うこととなった今大会。私は開催地連盟の取りまとめ役としての事前準備、当日は副サービスマネージャーとして大会開催に関わらせていただきました。

京都府は1988年の国体以降、スポーツ施設の新規設置が少なく、公設のスポーツクライミング施設はゼロという状況が長らく続いていましたが、昨年1月に竣工した「サンガスタジアム by Kyocera」のスタンド裏スペースに、国内では初となるリード・ボルダリング・スピードの3種目が屋内に揃う大規模クライミング施設が設置されました。会場となったこの施設はオープン直後よりコロナ禍に巻き込まれ、計画していた合宿誘致等もままならない運営が続いてきましたが、SJC・SYC 2021 亀岡大会の開催にあたり、ようやく日の目を見ることができたところです。

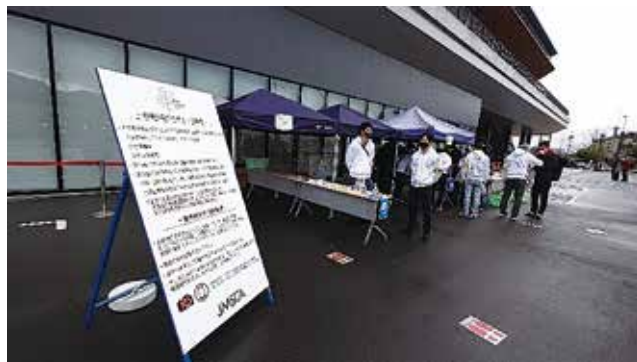
大きな観客席はないものの、大会に適したレイアウトで設計された屋内会場。会場全体に空調も完備されておりウォームアップエリアにはスピードパート壁。選手が好条件で大会に臨めるハードは揃っている。

私の課題は大会の経験や運営の経験が少ないスタッフ達であっても、選手がより良いパフォーマンスを発揮できる競技環境を如何に作っていくか。私自身も運営に関する経験の乏しい中、NFの役員の方々、地元ボランティアスタッフの方々に力を貸していただきながら、ひとつひとつ課題をクリアしながらの運営となりました。

大会当日は小雨の降る肌寒い日ではありましたが、スタッフ皆さんの尽力、またハード面で恵まれている会場ということもあり、結果としてSYC・SJCとも

に日本記録が生まれる素晴らしい大会として終了できました。

今後も、コロナ禍・無観客での開催等、スポーツ界にとっては今までとは違った課題に直面しながら、選手・NF・PF・そして観客、スポーツクライミングに関わるすべての方々の協力によって、新しいスポーツクライミングシーンが生まれることを切に願っております。選手の皆さま、大会関係者の皆さま、大変お疲れさまでした。



安全登山オンラインセミナー ～山を知る 山に学ぶ～ [参加無料]

JMSCA共催の安全登山の基礎的な知識を学べるオンラインセミナーが開催されます。

開催日程: 令和3年5月22日(土)～23日(日)

実施方法: 「Zoom」でのオンラインセミナー

申込方法: 国立登山研修所HPで開催要項を確認の上、申込フォームでお申込みください。

申込期間: 5月6日(木)～5月14日(金)

募集人数: 450名(定員になり次第、締切ります)

スポーツライミング部 ブロック別研修会報告

国体委員会

令和3年3月27日～28日の近畿ブロック別研修会で、令和2年度のSC部ブロック別研修会は終了した。

開催にあたりご準備いただきました主管連盟／協会の皆さま、受講いただきました参加者のみなさまに、感謝申し上げるとともに、本年10月開催の第76回国体(三重県)ブロック大会の開催等よろしくお願ひ申し上げます。

【研修会での重要なポイント】

研修名	主なポイント
AD委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未成年者とは、「18歳未満」 ・ 未成年者の親権者同意書は、「JADA・HPからダウンロードし持参する
技術委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審判員／ルートセッター資格の更新義務研修に関する特例措置(2020年度に研修の受講がなくても2021年度の更新は可、2020年度に研修を受講した場合は2022年度まで更新可、ただし毎年度申請と登録料の納入は必要) ・ NF競技規則の制定：今後のJMSCA主催競技会はNF競技規則に基づき実施・近年の競技規則改正・実務上の留意事項(抗議への対応等) <p>※研修会で使用したスライドをJMSCAウェブサイトからダウンロードできるように検討中</p>
国体委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康チェック票」事前／事後報告提出の義務は、予選会／ブロック大会／本大会が対象。 ・ 「参加資格同等の扱い」とし、すべての競技者／運営関係者が対象。未提出は、「参加できない」 ・ 事前配布の、実施要項／実施要領等での周知徹底。 ・ 「ロープの一人1本」の個人持参 ・ 本大会ブロック選出数／種別数の改正。
強化委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県に強化コーチの専任と、ブロックごとに「専門委員の配置」 ・ 東京／パリ五輪に向けた、強化戦略等



AD研修の一コマ(講師：大森俊・SC医科学委員長)

今年度の研修会は、COVID-19感染症拡大予防による緊急事態宣言や不要不急の外出自粛等の中で、安心・安全の予防策を講じての開催となった。

研修会は、(1)JMSCA公認スポーツライミングC級審判員認定研修(以下「認定」)(2)スポーツライミング総合研修(以下「総合」として、①競技規則研修 ②競技運営研修 ③指導者育成研修 ④アンチ・ドーピング研修 の単元の研修を統合して開催した。なお「認定」「総合」研修は、JSPPO指導者更新義務研修受講、「総合研修はスポーツライミング審判員およびルートセッターの更新義務研修受講とし、効率的な研修会開催を図った。

【ブロック別研修会受講状況】

開催ブロック	審判員認定	総合研修	AD研修
7 (延期実施1含む)	64名	183名	232名

最後になりましたが、本研修会はSC部と地方ブロックとの情報共有／連携の重要な役割を担っています。

中止となったブロックから、Web開催の要望があり、主管岳連に対応を委ねましたが、開催には至りませんでした。

来年度開催ではより検討を重ね、受講しやすい研修会に努めてまいります。ありがとうございました。

(国体委員長 西原斗司男)

増本亮&さやかの Never Ending Journey ⑤

北米ツアーを終えた私たちが向かったのは、南米大陸。次なる目的地はパタゴニアだ。ヨセミテを出発してから、フィッツロイ山群の麓町エル・チャルテンに着くまで1週間。お金はないけど時間はたっぷりあるという理由でとにかく安い経路を選んだ。何度も飛行機を乗り換え、24時間以上の長距離バスにも2回乗った。荷物は相変わらず重く、治安の悪いバスターミナルでは危うくスリにあいそうにもなった。私はスペイン語が話せないこともストレスで、チャルテンに到着した時にはもうへトヘト。でも、二人ともこの町を再訪できた喜びは大きく、早速美味しいステーキとワインで乾杯した。

夫は今年で5回目になるけれど、私がチャルテンを訪れたのは昨年が初めて。夫と共にいくつかのピークに立った。アルパインクライマーとは到底言えない私がここでクライミングを楽しめたのは単に夫のお陰だ。登ったのはフィッツロイ山群の中では小さなピークだったけれど、それでも山の大きさは想像を超えていた。そして、それ以上に風の脅威は私の想像を遙かにこえていた。「嵐の大地」と言われるパタゴニア地方は、凄まじい風が吹くことで知られている。巨大な唸り声を上げながら吹き荒れる風は生きているかのように感じられ、獐猛な野獣が迫りくるような恐怖を感じさせるものだった。山から下山すると体の芯まで疲労困憊。行動時間が20時間を超えることも珍しくなく、体力的にも精神的にもギリギリで、クライミングを楽しむ余裕なんて全くなかった。それでも疲労感と共に体に満ちていたのはとてつもない充実感。フィッツロイ山群の懐に入って経験した全てに充実感があった。そして、日の出に真っ赤に染まるセロ・トーレの神々しさ、氷河から流れ出る水の色の美しさ、宇宙を感じさせるような真っ青な空、満点の星、珍しい鳥や花々。この地で登らなければ見られない、感じられないものがあると思った。強風から私たちを守ってくれる森がこんなにも偉大な存在だと感じたのも、その一つ。

快適なフリークライミングばかりやっていた私にとって、パタゴニアでのクライミングはまさに冒険だった。経験、実力ともに身の丈以上のことをしているのも



晴天無風の中デラエス東壁を目指す

わかる。それでも、パタゴニアで登ることは私のクライミングの幅を、そして世界を広げてくれるものだった。

2年目のパタゴニア。今年はどうなクライミングができるだろうか。期待と不安が入り混じる。

夫は言う「北米ではワールドクラスのクラシックを存分に味わった。だから、パタゴニアでの目的は、その先にある冒険。小さくても、それがチンケなものだったとしても、二人で自分たちのラインを拓こう。」と。

今年も例年に変わらず荒れた天気が続いていた。山でクライミングができそうな日が10日に1日あれば良い方で、2日続くことはなかった。まず足慣らしとしてデラエスへ登った。その後完璧な晴天とは言えないが弱風予報の日にラファエル・ファレスへ。片道約20キロのアプローチをこなしてベースキャンプへと向かう。そこから山の取り付きまでの氷河のアプローチにも骨が折れ、私にとってはひと山登るくらいの大変さがあった。夫が目をつけたラインはワイド、フィンガー、フェイスムーブと変化に富んでおり、夫の言葉を借りれば、快適に楽しいクライミングが楽しめた。でも、今回も漏れ無く付いてきた強風。順調に山頂に立ったものの下降では予想以上の風にあおられ、懸垂下降を始めればロープは風にあおられ勢い良く頭上に舞い上がった。普段神様に祈ることなんて滅多にないけれど、この時ばかりは神頼みをしてしまう。胸を締め付けられるような緊張感は下山するまで続き、私にとって本気の山行になった。

今回のエル・チャルテン滞在時に訪れた最高の好天周期は3日間。私たちはポインセノットの新しいラインに目標を定めたが、取りついて間もなく近くで登っていた友人のアクシデントがわかり、急遽レスキューに向かうことになった。ここではヘリでのピックアップという選択肢がないため、レスキューは人の力だけが頼りだ。世界中から来ている多くのクライマーが自分のクライミングを犠牲にしてレスキューに携わって

くれた。昼夜をかけて搬送し、友人は無事助かった。こんなにも安堵した経験を私はしたことがなかったし、協力してくれた全ての人に心から感謝した。そして、自分自身のクライミングに対しても深く考えさせられる経験になった。

残念ながらその後好天周期が訪れることはなく、結局今年のパタゴニアも思うように登れなかった。けれども、やっぱり来てよかった、と心から思えるのは不思議だ。私も夫もそれぞれに多くの出会いと学びを得たシーズンになったと思う。

今回の南米ツアーの目的地はもう一つあった。「南米のヨセミテ」とも呼ばれるチリのコチャモ溪谷の噂は数年前から聞いており、二人ともどうしても訪れてみたい場所だった。港町プエルトモンからローカルバスに乗り3時間ほどで登山口に到着。ここでは環境保護の観点から溪谷内に入れる人数を制限しており、キャンプ場の事前予約が必要で、登山口でもレンジャーのチェックが入る。思った以上に厳しく管理されていて驚いたが、実際ハイキングやキャンプを楽しむ人々か

らの人気が高く、ハイシーズンにはキャンプサイトの予約が取れなくなるほど人が訪れるようだ。

ベースキャンプとなるキャンプサイトまでは1日の行程。長期で滞在するクライマーは馬を雇って荷を上げている。クライミングエリアはいくつもあるが、今回私たちは6日間しか時間がなく、大きな岩壁を有する Anfiteatro (円形劇場という意味) に絞って登ることにした。その名の通り大岩壁に囲まれ圧巻の景色。そこにまだまだ開拓の余地が多く残されているとわかれればクライマーとして魅力を感じずにはいられないだろう。私たちはここで2本のクラシックルートを登った。標高差450mほどにスプリッター、スラブ、カンテ、ステミングコーナーと変化に富んだ内容が詰まっており、純粋にクライミングを楽しむことができた。旅の締めくくりとしては良かったけれど、やっぱりもう少し長くいたかったな、というのが正直なところ。北米、南米合わせて8ヶ月の旅を終えた私たちはいよいよ日本へと帰路についた。

新刊図書紹介

アスリート・コーチ・トレーナーのための 『トレーニング科学』 ～トレーニングに普遍的な正解はない～

山本正嘉 著

著者は、長年に亘って「トレーニング科学」をキーワードとして大学で教育と研究に携わってこられた。そこで悩み続けてきたのは、選手のことを考えるほど科学から離れてしまい、科学のことを考えるほど選手からは離れていってしまう、という二律背面的問題



だった。長い年月を費やして漸くたどり着いた結論が、学生に正解を教えようとするのではなく、正解に近づくための「考え方」を教えるように努めることだった。

本書は、体育大学生がトレーニング科学を教えるとはどういうことか、また体育大学でトレーニング科学を研究するとはどういうことかについて、著者が長らく反問(煩悶)してきた末に到達した著者の考えを書かれたものです。

I部「トレーニングを始める前」4章、II部「トレーニングを実行する」5章、III部「トレーニングを記述する」2章の構成と章立てになっており、I部、II部が大学2年生向けの「トレーニング科学概論」の講義内容を整理したりテラシー。III部は3、4年生を対象としたゼミで行う教科書的な部分となっている。各章の所々にコラム欄があり、息抜きできるので、読みやすい。

本書の趣旨は、サブタイトルの「トレーニングに普遍的な正解はない。」とのこと。アスリート、コーチ、トレーナーには、お薦めの一書である。

(有)市村出版 2021年2月11日発行
205頁 定価2,700円+税

山本正嘉 (やまもと まさよし)

1957年、神奈川県横須賀市生まれ。鹿屋体育大学教授。

東大スキー山岳部時代のシヴリン北稜初登攀をはじめアコンカグア南壁のアルパインスタイルによる登攀などの卓越登山を基に研究を行い、低酸素室と富士山を使用した高所順応トレーニング法を開発し、その理論に基づいた登山をアコンカグアやムスターグアタ登頂で実践。これらを基に高所順応の方法論、システムの効率化を探り、大きな成果を残された。

2001年、秩父宮記念山岳賞受賞、2021年、第10回日本山岳グランプリ受賞

CAS仲裁判断を受けて今後に向けたご報告

2021年3月29日

公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
公益財団法人 日本オリンピック委員会

■CAS仲裁申立てに至った経緯と顛末について

日本山岳・スポーツクライミング協会(以下「JMSCA」)は、国際スポーツクライミング連盟(以下「IFSC」)が説明していたスポーツクライミング競技の選手選考システム(以下「OQS」)に関する解釈に基づき、国内選考基準を作成し、2019年5月21日に公表しました。ところが2019年10月に入り、IFSCがOQSに関する解釈を変更したため、JMSCAは、公表した国内選考基準に基づく代表選手選考ができなくなりました。そこでJMSCAは、日本オリンピック委員会(以下「JOC」)とも確認を行いながら、IFSCと対応について協議をしまいましたが、合意に至ることができず、①IFSCが行ったOQSの解釈変更の撤回、及び②従前の解釈に基づく日本選手への出場枠の配分を求め、スポーツ仲裁裁判所(以下「CAS」)に仲裁を申し立てました。しかしCAS仲裁パネルは、2020年12月11日、JMSCAの上記の求めを棄却する判断を下しました。

2020年4月1日に予定していた審問期日が、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年8月26日に延期されたことから、仲裁申立てから仲裁判断に至るまでに1年1カ月を要する結果となりました。

■再発防止に向けて

JMSCAとJOCは、CAS仲裁判断を受けて、このような事態に至ったことの原因を共有し、2024年のパリ大会以降の五輪競技大会等に向けた再発防止のため、より緊密に連携していくことを以下のとおり確認しました。

今回、JMSCAが公表した国内選考基準の作成とこれに基づく代表選考、及びJOCとの関連手続きは、五輪憲章上OQSの作成者であるIFSCの説明に基づき実施されたものでした。しかしながら、CAS仲裁判断では、OQSの解釈権限はOQSの最終承認者である国際オリンピック委員会(以下「IOC」)が持つものであり、IFSCの当初説明が誤っていた場合でも、IOCの説明ではなく、IFSCが行ってきた説明を信じた以上、その結果責任はそれを信じたJMSCAにあるとの指摘がされています。

これを踏まえ、JMSCAとJOCは再発防止策とし

て、国際競技連盟の作成したOQSに疑義がある場合には、国内オリンピック委員会としてJOCからもOQSの最終的な承認権限をもつIOCへの問合せを行うこと、また、こうした対応を適切に実行していくため、JMSCAとJOCがより緊密な連携体制を築くことを確認しました。

【JMSCAのコメント】

JMSCAとして、2020年12月11日のCAS仲裁判断を受けまして、国内選考基準によれば五輪出場可能性がある選手の五輪への道が絶たれてしまったこと、加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり選手をはじめ関係者の皆さまを長期間にわたり不安定な状況に置いてしまったことについて、深くお詫びを申し上げます。

また、CAS仲裁判断を吟味した上で真摯に受け止め、この仲裁判断を今後の五輪代表選考等に生かすべく、対応策について検討させていただきました。

JMSCAは、今回、CASへの提訴をせざるを得ない状況に至ってしまったことについては、JMSCAに、選手を五輪大会に送り出すに足りるだけの五輪代表選考についての知識や経験を持ち合わせていなかったことに一因があると考えています。この点については、深く自省すると共に、今後の2024年以降の五輪大会を含む国際大会において、二度と選手を同じような境遇に置かぬよう、JMSCA関係者一同、JOCとも連携させていただきながら、努力してまいりたいと思います。

さらには、仲裁においては、IFSCと主張をたたかわすこととなりましたが、仲裁判断が出た以上、この判断を真摯に受け止め、反省すべき点は反省し、積極的にIFSCとコミュニケーションを取りながら、今後のより良き関係を築くよう努めたいと存じます。

【JOCのコメント】

この度の選手選考における一連の経緯においては、国内オリンピック委員会として適切な対応をとってきたつもりでしたが、仲裁判断には更に踏み込んだ対応を行う必要性も指摘されました。結果として、東京2020大会を目指す選手たちに長期にわたり不安と負担を感じさせてしまったことをお詫びし、今後は東京2020大会の代表選手たちをしっかりとサポートしていきます。

今回の経験を踏まえ、スポーツクライミング競技の実施が正式に決定されたパリ2024年大会に向けて、JMSCAとも緊密な協力体制のもとに、同じ誤りが繰り返されないように万全を期し、また、今後同種の問題を未然に防ぐため、国内の中央競技団体とも更なる連携を図ってまいります。

山の自然環境を考える(その2)

(一社)大阪府山岳連盟 会長 飛田典男

最近の新聞紙上では「脱炭素」「SDGs」が取り上げられない日が無いほどである。2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030行動計画」には、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17項目の目標と169のターゲットが掲げられ、その内容が示されている。山の自然環境を考える上で対象となる項目は「気候変動対策」と「陸の豊かさを守る」であろうか。それでは、これらの目標を意識した行動を我々は取ってきただろうか。

身近な山においても温暖化による様々な自然環境の変化を動植物・昆虫等々において感じているし、報じられてもいる。また、気候変動によると考えられる巨大台風による強風、豪雨など過去に経験の無い規模のものが近年続々と襲い掛かってきていることを誰もが感じている。加えて、大気汚染、地震に竜巻、火山活動までも社会不安を掻き立てている。

世情に疎い山やでも頻発する登山道の崩壊や倒木そして土石流による被害を実感し、無関心ではられない状況にまできている。

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリ氏の悲痛な叫びが耳を打つ。

山の実態も気候変動により世界中の山で氷河の後退や先日のインドヒマラヤで起きた氷河湖の決壊が現実の問題として懸念されてきている。日本でも夏場に消失しなかった黒部峡谷下の廊下の雪渓が消失していることが報告されてる。地球規模の変動に諍う術はなく、今は、自然の摂理として受け入れざるを得ない。確実に地球の温暖化が進行している事実を受け止め、その中で我々に何が出来るのであろうか。山の自然を考える前に地球という大前提に取り組まなければならないことが突き付けられている。欧州では社会生活を変化させるべく、市民レベルで自動車を止め自転車、飛行機を止めて電車といった取り組みが始まっているらしい。自動車も電気自動車が主流となることに各国が期限を決めて舵を切っている。しかし、期限までに自然エネルギーのみで電気を賄う事は懐疑的でもある。化石燃料の消費を削減し温暖化ガスを減らすことは大賛成だが、究極の策ではなく、更なる技術革新が求められているのが現実である。

様々な温暖化対策が推進されている中で、一人一人、出来る事から始めることは当たり前のこととした上で、我々が貢献できるものとは考えると、それは山の緑を

守る事であり、これ以上自然を疲弊させない取り組みであり、エコシステム(生態系)を壊さない様々な活動への参画と実効ある活動ではなかろうか。

そこで、見直さなければならぬのが自然との共存を考えた意識改革である。カナダに旅した際に街中で動物の多い事、キャンプ場では熊に襲われない様に金属製の保管庫に食糧を格納すること、高速道路には動物の生活通路が確保され、動物の通行を妨げないように制限速度が定められている事などに驚いた。(写真1)これらは自然との共存が社会的なコンセンサスとして定着していることから為されていると知り、なるほどと感心させられた。果たして、日本においてこの自然との共存は考えられているだろうか。山に限らず自然を考える為には、まず、この点についての意識共有化と浸透が緑を守るキーワードではないだろうか。

日本には開発の名目や社会の安全といった大義名分を掲げて多くの自然を消失させ、生態系を分断してきた歴史がある。我々もそれが当たり前といった意識の下で暮らしてきた。インフラの美名に踊らされるのではなく、可能な限り自然との共存を図った計画であることを提案し続けることである。生態系を破壊してしまうようなプランがあれば断固として声を上げようではありませんか。また、山の自然環境に興味を持っている多くの若い人達からの生の声を引き出す試みが望まれる。

今回は、登山道について考えてみたい。

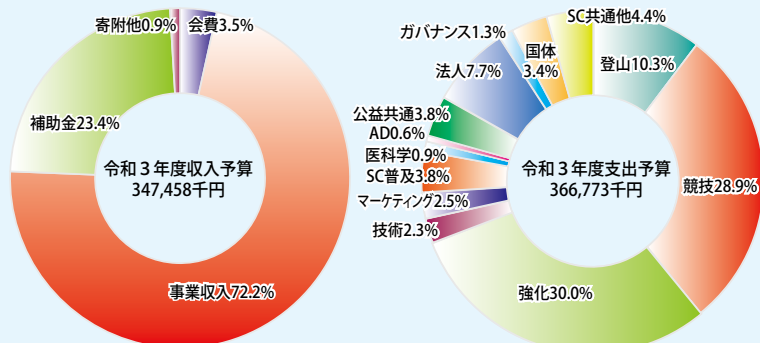


令和3年度収支予算書

〔収支予算内訳〕 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

科目	登山部計	S C部計	その他計	公益計	法人	合計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	6,035,000	6,035,000	6,035,000	12,070,000
正会員受取会費	0	0	1,335,000	1,335,000	1,335,000	2,670,000
加盟分担金受取会費	0	0	3,950,000	3,950,000	3,950,000	7,900,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	0	0	750,000	750,000	750,000	1,500,000
事業収益	34,444,000	176,024,000	19,271,000	229,739,000	20,989,000	250,728,000
共済会委託事業収入	28,561,000	0	2,450,000	31,011,000	3,989,000	35,000,000
登録料収入	600,000	0	0	600,000	13,000,000	13,600,000
競技選手登録料収入	0	0	0	0	12,000,000	12,000,000
諸登録料収入	600,000	0	0	600,000	1,000,000	1,600,000
参加者負担金収入	3,963,000	1,769,000	1,700,000	7,432,000	0	7,432,000
講習会参加料収入	3,401,000	1,769,000	500,000	5,670,000	0	5,670,000
諸参加料収入	562,000	0	1,200,000	1,762,000	0	1,762,000
協賛金収入	550,000	142,918,000	12,001,000	155,469,000	4,000,000	159,469,000
広告料収入	0	0	3,120,000	3,120,000	0	3,120,000
競技会収入	770,000	29,567,000	0	30,337,000	0	30,337,000
選手参加料収入	770,000	19,612,000	0	20,382,000	0	20,382,000
入場料収入	0	6,775,000	0	6,775,000	0	6,775,000
諸収入	0	3,180,000	0	3,180,000	0	3,180,000
その他事業収益	0	1,770,000	0	1,770,000	0	1,770,000
受取委託金	0	3,000,000	0	3,000,000	0	3,000,000
スポーツ庁委託金	0	3,000,000	0	3,000,000	0	3,000,000
日本スポーツ振興センター委託金	0	0	0	0	0	0
受取補助金等	3,500,000	72,927,000	720,000	77,147,000	1,200,000	78,347,000
日本オリンピック委員会助成金	0	62,327,000	0	62,327,000	0	62,327,000
国民体育大会補助金	0	4,600,000	0	4,600,000	0	4,600,000
日本スポーツ協会助成金	0	0	0	0	1,200,000	1,200,000
日本スポーツ振興くじ助成金	1,500,000	0	720,000	2,220,000	0	2,220,000
日本スポーツ振興基金助成金	0	6,000,000	0	6,000,000	0	6,000,000
日本スポーツ振興センター助成金(中高年)	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
受取負担金	0	2,100,000	0	2,100,000	0	2,100,000
受取負担金等	0	2,100,000	0	2,100,000	0	2,100,000
受取寄附金等	0	0	1,200,000	1,200,000	0	1,200,000
受取寄附金	0	0	1,200,000	1,200,000	0	1,200,000
雑収益	0	0	0	0	13,000	13,000
受取利息	0	0	0	0	3,000	3,000
雑収入	0	0	0	0	10,000	10,000
経常収益計	37,944,000	254,051,000	27,226,000	319,221,000	28,237,000	347,458,000
(2) 経常費用						
事業費	37,944,000	273,366,000	26,426,000	337,736,000	0	337,736,000
給料手当	4,896,000	20,893,000	1,834,000	27,623,000	0	27,623,000
臨時雇賃金	0	0	180,000	180,000	0	180,000
通勤費	142,000	635,000	57,000	834,000	0	834,000
退職給付費用	228,000	1,017,000	90,000	1,335,000	0	1,335,000
賞与引当金繰入	297,000	1,332,000	117,000	1,746,000	0	1,746,000
福利厚生費	592,000	2,645,000	233,000	3,470,000	0	3,470,000
会議費	779,000	2,554,000	2,050,000	5,383,000	0	5,383,000
旅費交通費	14,070,000	88,472,000	3,151,000	105,693,000	0	105,693,000
通信運搬費	444,000	4,432,000	1,532,000	6,408,000	0	6,408,000
減価償却費	263,000	1,560,000	137,000	1,960,000	0	1,960,000
消耗品費	1,027,000	2,265,000	56,000	3,348,000	0	3,348,000
印刷製本費	1,856,000	5,628,000	5,320,000	12,804,000	0	12,804,000
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0
光熱水料費	29,000	278,000	11,000	318,000	0	318,000
貸借・リース料	1,551,000	19,046,000	1,713,000	22,310,000	0	22,310,000
保険料	363,000	2,643,000	60,000	3,066,000	0	3,066,000
諸謝金	3,587,000	33,269,000	1,610,000	38,466,000	0	38,466,000
大会施設費用	210,000	18,845,000	0	19,055,000	0	19,055,000
支払負担金	300,000	0	0	300,000	0	300,000
支払助成金及び事業交付金	200,000	2,160,000	0	2,360,000	0	2,360,000
委託費	4,410,000	33,093,000	2,500,000	40,003,000	0	40,003,000
租税公課	784,000	3,500,000	325,000	4,609,000	0	4,609,000
参加登録料	0	0	0	0	0	0
現地サポート費用	0	14,506,000	0	14,506,000	0	14,506,000
大会記念品費	15,000	298,000	400,000	713,000	0	713,000
大会賞金	0	1,440,000	0	1,440,000	0	1,440,000
報奨・奨励金	1,500,000	2,700,000	5,000,000	9,200,000	0	9,200,000
I T関連費	0	80,000	0	80,000	0	80,000
雑費	401,000	10,075,000	50,000	10,526,000	0	10,526,000
管理費	0	0	800,000	800,000	28,237,000	29,037,000
役員報酬	0	0	0	0	90,000	90,000
給料手当	0	0	0	0	2,800,000	2,800,000
通勤費	0	0	0	0	90,000	90,000
退職給付費用	0	0	0	0	140,000	140,000
賞与引当金繰入	0	0	0	0	180,000	180,000
福利厚生費	0	0	0	0	360,000	360,000
会議費	0	0	0	0	1,200,000	1,200,000
旅費交通費	0	0	0	0	3,800,000	3,800,000
通信運搬費	0	0	0	0	100,000	100,000
減価償却費	0	0	0	0	50,000	50,000
消耗什器備品費	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
消耗品費	0	0	0	0	80,000	80,000
印刷製本費	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000
光熱水料費	0	0	0	0	20,000	20,000
貸借・リース料	0	0	0	0	800,000	800,000
支払会費	0	0	0	0	4,000,000	4,000,000
保険料	0	0	0	0	100,000	100,000
諸謝金	0	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	380,000	380,000
支払負担金及び還付金	0	0	0	0	3,800,000	3,800,000
交際費	0	0	0	0	300,000	300,000
支払利息	0	0	0	0	0	0
支払報酬	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
手数料	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000
I T関連	0	0	800,000	800,000	1,000,000	1,800,000
雑費	0	0	0	0	1,547,000	1,547,000
経常費用計	37,944,000	273,366,000	27,226,000	338,536,000	28,237,000	366,773,000
当期経常増減額	0	△ 19,315,000	0	△ 19,315,000	0	△ 19,315,000

収入予算	
会費	12,070
事業収入	250,728
補助金	81,347
寄附他	3,300



単位：千円

登山	37,944
競技	106,289
強化	110,450
技術	8,532
マーケティング	9,095
S C 普及	14,140
医科学	3,438
A D	2,047
公益共通	14,005
法人	28,237
ガバナンス	4,874
国体	12,641
SC 共通	16,195

令和3年度事業計画

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 安全登山普及事業

- (1) 青少年育成事業
ア) 高体連登山専門部関連
- ① 第64回全国高等学校登山大会令和3年度福井大会 8/20(金)～23(日) 三頭山、取立山山域
- ② 第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 12/25(土)～26(日) 埼玉県加須市市民体育館
- イ) ジュニア登山教室
- ① 「少年少女登山教室」の開催(委託実施)
- ② 「登山普及情報交換会」開催
2022年2/12(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- (2) 登山に関する文化・学術の振興事業
ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供
- イ) 登山に関する情報・資料の収集
- ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰
- エ) 2021年度海外登山隊奨励金の公募と選考
- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援
- カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る
- (3) 安全登山の啓発事業
- <普及委員会>**
- ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)
- ① 東部地区(三重県) 10/22(金)～24(日) 四日市市少年自然の家、雲母峰周辺
- ② 西部地区(佐賀県) 11/20(土)～22(日) 佐賀県立少年自然の家、黒髪山系
- イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)
- ① 高等学校等登山指導者夏講習会 7/9(金)～11(日) 国立登山研修所及び室堂周辺
- ② 上級登山リスクマネジメント指導者研修会 9月予定 近畿地区予定
- ③ 安全登山サテライトセミナー
オンライン 宮城の前に開催予定
宮城会場：5月下旬～6月下旬
東京会場：12/18(土)～19(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ④ 登山リーダー夏山研修会 8/18(水)～23(日) 国立登山研修所及び剱岳周辺
- ⑤ 積雪期登山基礎講習会
2022年2/11(金)～13(日) 国立登山研修所及び周辺山域
- ⑥ 登山リーダー冬山研修会
2022年3/13(日)～18(金) 国立登山研修所及び大日岳周辺
- ウ) 第59回全日本登山大会の開催(中止)
- <遭対委員会>**
- ア) 山岳レスキュー講習会
- ① 西部地区(富山県・国立登山研修所) 9/10(金)～12(日)
- ② 東部地区(群馬県・土合山の家) 1/28(金)～30(日)
- イ) 研修及び研究会
- ① 遭対常任委員研修会 8/21(土)～22(日)、12/18(土)～19(日)
- ② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6/26(土)～27(日)
- ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び

- 実態調査
- ・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動
- ・アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ!」の拡散
- エ) 令和3年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他) 7/16(金) 文科省講堂
- オ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/H P掲載)
- カ) 遭難事故の調査研究
- ・遭難事故に関する調査研究(委託事業)
- ・遭難事故の科学的分析
- キ) 遭難事故科学的研究・他支援
- ・I M S A R 研究助成支援(継続)
- ・内閣府「噴火時等の避難計画手引き」作成協力
- ク) 遭対委員会 年間オンライン等
- ケ) 「国内旅行傷害保険包括契約」実施
- <国際・アルパインクライミング委員会>**
- ア) 国際・アルパインクライミング委員全体会議兼第59回海外登山技術研究会 場所日程未定
- イ) 海外登山懇談会
11月 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ウ) 共催事業
ウィンター・クライマーズ・ミート(国内)の共催 2022年2月
- (4) 登山指導者育成事業(指導委員会)
- ア) 指導員研修会
- ① 氷雪技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会) 5/8(土)～9(日) 富士山(中止)
- ② 全国指導委員長会議 6/5(土)～6(日) オンラインにて
- ③ 登攀技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会) 11/6(土)～7(日) (一社)埼玉県山岳・SC協会
- ④ 氷雪技術研修会(A級主任検定員・コーチ2養成講習会) 2022年2/5(土)～6(日) 鳥取・大山
- ⑤ 公認スポーツ指導員コーチ1,2、主任検定員の養成
- ⑥ 夏山リーダー講師養成 年3回程度
- ⑦ 上級夏山リーダー講師養成 年1回程度
- イ) 主任検定員養成講習会
- ・山岳主任検定員養成講習会 未定
- ウ) 夏山リーダーUIAA視察(9月、11月)
- エ) 委員会等
- ① 指導常任委員会 年間オンライン会議
- ② 夏山リーダー分科会 年間オンライン会議
- オ) 国立登山研修所事業への協力
- 2. スポーツクライミング事業**
- (1) 競技会運営事業
- ア) 競技会・研修会の開催
- ① 第7回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会 4/24(土)～25(日) 鳥取県倉吉体育文化会館
- ② 第4回コンバインドジャパンカップ 6/18(金)～19(土) 岩手県盛岡市 岩手運動公園スポーツクライミング競技場
- ③ 第9回リードユース日本選手権 5/29(土)～30(日) 南砺市・桜ヶ池クライミングセンター
- ④ ユースCDチャレンジカップ(仮称) 9/18(土)～20(日) 茨城県鉾田市
- ⑤ 第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会(「青少年育成事業」の

- 項参照)
- ⑥ 第35回リードジャパンカップ
2022年2/11(金)～13(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館
- ⑦ 第17回ボルダリングジャパンカップ
2022年3/12(土)～13(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
- ⑧ 第4回スピードジャパンカップ
2022年3/19(土)～20(日) 昭島市・モリパークアウトドアビレッジ
- (2) 国体スポーツクライミング競技の主管
- ア) ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック
- イ) 第76回三重国体
- ① 第1回基準会議、三重県菟野町 日程調整中
- ② 組み合わせ抽選会 場所、J S O S ビル 日程調整中
- ③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ④ 10/1(金)～3(日) 第76回三重国体スポーツクライミング競技、三重県菟野町
- ⑤ 第76回三重国体以降の開催県への指導
- (3) 強化事業
- ア) オリンピック強化選手の選考
- イ) 日本代表選手選考・派遣
- ① 代表(S. A. B) 選手の選考
- ウ) 代表選手の派遣
- ① I F S C クライミングWC 4月～11月 世界各地
- ② 第32回夏季オリンピック大会 8/3(火)～6(金) 東京・青海アーバンスポーツパーク
- ③ I F S C 世界選手権 9/15(火)～21(日) ロシア・モスクワ
- ④ I F S C 世界ユース選手権 8/23(月)～31(火) ロシア
- ⑤ I F S C アジア選手権重慶大会 日程未定
- ⑥ I F S C アジアユース選手権 日程未定
- ⑦ アジアンビーチゲームズ 中国 三亜市(延期)
- エ) 代表選手強化宿泊(海外・国内)
- オ) ユース選手・指導者講習会の開催
- カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害予防啓発(医学支援)
- キ) 複合種目(リード、ボルダリング)及びスピード種目への取り組み
- ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み
- ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討
- (4) 審判・ルートセッター事業
- ア) 審判・セッター会議の開催(2月)
- イ) 全国ルートセッター研修会 年2回
- ・第1回：日程未定・第2回：日程未定(高校選抜の後)
- ウ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会 年数回
- (5) S C コーチ養成講習会
- ① S C コーチ1,2養成講習会 年2回
- ② S C コーチ3養成会(補講) 関東地区
- ③ S C 主任検定員養成講習会 12/4(土)
- ④ S C コーチ更新研修会 年2回
- ⑤ S C コーチ養成用教材作成
- (6) スポーツクライミング医・科学事業
- ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動
- イ) 代表選手メディカルチェック事業
- ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業

- ①登録選手向け医科学講習会(選手スタッフ合同ミーティング)
- ②クライミング医科学講習会
- エ) 調査、研究事業
- ①障害実態調査
- ②学会活動(日本臨床スポーツ医学会他)
- オ) J S P O公認スポーツドクター、アスリートチェックトレーナー養成支援(受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席)
- (6)ドーピング防止事業
- ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
- ①ドーピング検査実施(J A D Aに委託)
- ②ドーピング防止講習会開催
- ③T U E(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援
- ④A D A M S(アンチドーピング管理システム)登録選手への管理支援
- (7)倫理研修会事業
- ・A D・倫理研修会の開催(随時)
- (8)ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会) J O C主催委員会等出席
- (9)国際連盟役員獲得支援事業
- スポーツ庁の委託を受けて実施する。

3. 登山関連競技会運営事業

- (1)山岳スキー、スカイ/トレラン普及・振興
- ①第14回日本山岳スキー競技選手権大会 4/3(土)~4(日) 小谷村柵池高原スキー場
- ②I S M F(国際山岳スキー連盟)アジア選手権派遣支援
- ③(一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

- (1)国際交流事業
- ア) 国際交流
- ①訪日する外国登山代表団との交流
- イ) 派遣他
- ②BMC International Climbers Meetの派遣

- ノース・ウエールズ 日程未定
- ③UIAAアイスクライミング選手権派遣支援
- (2)登山医・科学支援事業
- ア) UIAA MedCom Meetingへの出席
- イ) 支援している医科学的諸事業
- ①J S M M国際認定山岳医研修会
- ②N P O富士山測候所を活用する会
- ③J S M M登山者検診ネットワーク
- ④夏山リーダー制度、インターハイ支援
- ウ) 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

- (1)山岳環境保全事業
- ア) 研修及び研究会
- ①令和3年度自然保護委員総会(第44回山岳自然の集い) 11月中旬 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ②山岳自然保護環境研究会パート1 5月下旬 場所未定
- ③第12回自然保護指導員研修会 2022年1月下旬 国立オリンピック記念青少年総合センター
- イ) 自然保護の啓発
- ①自然保護指導員制度の推進
- ②自然保護広報資料の出版
- ③全国環境月間(6月)の実施
- ④環境省・自然公園指導員制度への協力
- ・自然公園指導員の推薦
- ⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
- ・山岳団体自然環境連絡会への参加
- ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
- ・各種環境保護事業の後援と派遣
- ⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力
- ⑦全国山岳自然保護関係活動の集約とH P 広報

6. 共益事業

- (1)広報等
- ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第625

- 号(4月号)~第636号(3月号)
- イ) H Pのタイムリーな更新作成 (http://www.jma-sangaku.or.jp)
- ①H P新規アップ
- ②英文コーナーの新設
- (2)会議等
- ア) 総会 6/20(日)
- イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日 6月は総会の15日以上前の日
- ウ) 全国理事長会議 2022年2/13(日)
- エ) 全国参与会(中止・第59回全日本登山大会中止により)
- オ) 常務理事会 原則として毎月第二木曜日
- カ) 委員長会議
- キ) 常任委員会 毎月1回以上開催
- ク) 事務局会議(随時)
- ケ) 山岳4団体懇談会(日程未定)
- コ) (一財)全国山の日協議会(随時)
- ・評議員会・理事会・運営委員会への出席
- ・第5回「山の日」記念全国大会 8/11(火) 大分大会
- ス) 国際会議
- ①国際山岳連盟(U I A A)理事会
- ②国際山岳連盟(U I A A)総会 11月初旬 トルコ
- ③アジア山岳連盟(U A A A)理事会 日程未定
- ④アジア山岳連盟(U A A A)総会 日程未定
- ⑤国際山岳連盟登山部会 日程未定
- 国際スポーツクライミング連盟(I F S C)総会 パリ 4/23(金)~24(土)
- ⑥国際スキー連盟(I S M F)総会 5/7(金)~9(日)
- (3)総務等
- ア) 役員改選 6/20(日)令和3年度定時総会
- イ) 令和3年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- ウ) 議事録の整備
- エ) 山岳保険のP R(山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ等)
- オ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。



令和2年度
第10回 Web理事会報告

日時: 令和3年3月11日(木)
14:00~16:40

場所: Web会議

出席者: 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、山口、水村、前田、六角、唐木、古賀、山本、古林、小日向、安藤各理事、中島、古屋各監事

冒頭、東日本大震災の犠牲者に対して黙祷を捧げた。

1. 開会

八木原会長から「今年度の総会で2019年の赤字の責任は私を筆頭に全理事にある、と申し上げた。本年はコロナ禍による事業中止等があり、大幅な黒字とのこと。しかし、これは自力更生ではない。全理事が認識しなくてはならない。私自身も責任は果

たしたとは言えないが赤字は解消された。3期6年をもって退任したいと思っている。来期は既に30数人の理事候補者が推薦されている。」と挨拶。

次いで事務局長から理事23名、監事2名の出席が確認され、事務局長がオンライン会議のホストを務めて議事に入った。

2. 議題

- (1)議案第1号 議事録の承認について
2020年度第9回理事会議事録の承認について(事前送付済)
全員一致で異議なく承認された。
- (2)議案第2号 令和3年度事業計画について
一部文言の訂正の後、採決に入り、全員一致で承認された。
- (3)議案第3号 令和3年度収支予算について
経常収益計347,458千円、経常費用計366,773千円で、その差額19,315千円の赤字予算となった。公益目的事業会計が、経常収益計319,221千円、経常費用計338,536千円で19,315千円の赤字。法人会計では経常収益計28,237千円、経常費用計28,237千円の収支均等。会費収入は内閣府の指導もあり、公益目的事業と法人管理費に半額ずつ計上した。赤字の19,315千円については、特定費用準備資

金のなかから20,000千円を取り崩し、残りの685千円は予備費として計上したい。委員会事業予算はほぼ要求通り、ただ委員会管理等は実績に合わせている。SC部関連の雑費についてはコロナ禍でのPCR検査費用等があり、10,000千円ほど計上した。

- 採決に入り、全員一致で承認された。
- (4)議案第4号 特定費用準備資金等取扱規程の制定について
令和2年度の決算では大幅な黒字が見込まれる。公益法人会計には収支相償の原則があるが、将来の特定の活動のための資金の保有は認められている。これを特定費用準備資金という。使用目的や積立額を明確に定め、使用目的に従って使用し、取り崩す必要がある。そのための規程の整備も求められる。特定費用準備資金は、貸借対照表及び財産目録に名称を付した特定資産として、他の資金と明確に区分して管理しなければならない。また、特定の目的外で取り崩すことを禁ずるほか、特定の目的外の取り崩しを行う場合は、会長は、取崩しが必要な理由を付して理事会に付議し、その決議を得なければならない。

お諮りする規程(案)は、内閣府公益認定等委員会に確認して問題ないと言われている。第2条の定義の条文表現に一部修正の指摘があった。

全員一致で承認された。

(5)議案第5号 特定費用準備資金の積み立てについて

令和2年度に「財政基盤確保資金」と「国際大会開催資金」の特定費用準備資金を保有したい。その内容は、今後想定される協賛金及び補助金収入の減少及びIFSC国際競技大会の開催に向けての準備資金の確保である。計画では令和2年度に30,000千円ずつ積み立てし、令和7年度までに取り崩すものとする。最長5年間である。

今期の収支差額が60,000千円以下の場合、積立額を変更するのか、などの質疑応答の後、採決に入り、全員一致で承認された。

(6)議案第6号 中期経営計画について

中期経営計画(2021~2025年)について資料に基づいて内容の説明があった。全員一致で承認された。

(7)議案第7号 公認スポーツ指導者コーチ認定及び夏山リーダー認定について

指導委員会から以下の認定承認が諮られ、全員一致で承認された。

ア)指導者認定申請

①福岡県山岳連盟

山岳コーチ1:長野和幸、野田裕美、町元里香

②神奈川県山岳連盟

山岳コーチ1:飯塚剛、三田幸雄、高田雅文、工藤昌幸、古橋義幸、桑原巧、宮本知保

③大阪府山岳連盟

夏山リーダー:原田文美、原田毅、管勝典、桂山章、村上晃、塚尾勲、富岡英明、船山尚孝、崎山晃一、吉村元秀

④神奈川県山岳連盟

SCコーチ1:小船園望、澤浦和香、岩崎賀央、松岡和

(8)議案第8号 参与の推薦と賛助会員入会

承認について

栃木県山岳・スポーツクライミング連盟の仙石富英氏の参与推薦が諮られ、参与への推薦が承認された。

続いて、賛助会員に関する規程第2条第1項第2号の定款第28条に規定する参与の賛助会員の入会承認が諮られ、全員一致で異議なく承認された。

(9)議案第9号 SC審判員選考規程について

この規程は、JMSCA公式競技用であり、国体とは別である。文言一部訂正の上、全員一致で承認された。

(10)議案第10号 JSPO令和3年度スポーツ功労者表彰に係る推薦依頼について

今年度も該当者なしで推薦しないことが、全員一致で異議なく承認された。

3. 報告

(1)報告第1号 2月度月次会計報告

1月月次と大きな違いは、JOC選手強化費の内示交付が変更になったので、JOC助成金22,400千円が減額となった、と報告。

(2)報告第2号 IFSC会長からの要請について

Webを利用したり、発展途上の国に向けたコーチング等がアイデアとしてあがっている。300万円程度の規模となる。

(3)報告第3号 第3回SJC(亀岡)報告について

初めての会場で、選手の素晴らしいパフォーマンスがあり、スピードも注目された、と報告。

(4)報告第4号 第34回LJC(印西)について

緊急事態宣言が解除されていないが、観客を150人程度入れることで考えている、と報告。

(5)報告第5号 第4回CJCについて

競技方式をシミュレーション中との事。出来るだけパリオリンピックの順位計算方式でお願いしたいとの要請があった。

(6)報告第6号 BYC開催要項について

開催要項の報告があった。会場の建物が換気対策には不向きとの事。

(7)報告第7号 役員候補者選考委員会報告

亀山選考委員会委員長から理事は32名

の被推薦者、監事は2名の被推薦者がいる。会長候補者については、被推薦者の自薦、選考委員の他薦を募る。と報告。

(8)報告第8号 名義後援について

・日本山岳写真協会(日本山岳写真協会)

・えひめスピードトライアル(愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟)

・岡山・東中山下公園ボルダリング体験会((一社)岡山県山岳・スポーツクライミング連盟)

上記3団体の名義後援承認について報告があった。

(9)報告第9号 規則の改定について

・SC競技規則

・国体SC競技関連規則

・国体SC競技開催基準要項細則

国体は2人1組のチーム競技ではあるが、スポーツクライミングの1競技として入れていきたい。IFルールとの整合性をとるため統一できる条文は統一したい、国体特有の規定は残しつつ、他についてはスポーツクライミング規程に合わせることになる。常務理事会での承認内容の報告であった。

(10)報告第10号 業務執行理事の職務執行報告

各々の業務執行理事が自分の書いた資料を基に報告を行った。

(11)報告第11号 令和3年度日山協山岳共済会事業計画及び収支予算について

令和3年度の山岳保険は、保険法の改正もなく、優良割引も前年同様の適用により、各コースとも保険料、補償内容とも前年と同じ商品を提供できる。新規事業としてロープワーク、セルフレスキュー講習会、オンラインでの山岳保険説明会についても言及があった。

収支予算については、令和3年度もコロナ禍で共済会加入者の回復が望めないため、経常収益52,410千円、経常費用57,000千円で、4,590千円の赤字予算とした。従ってJMSCAへの業務委託料も3500万円となる。

(12)報告第12号 IFSC WC マイリゲン派遣について

資料に基づいて男子9名、女子6名の選手派遣の報告があった。

(13)報告第13号 2021年スピード日本代表選考について

選考基準に基づいてスピード日本代表選手男子5名、女子4名選考の報告があった。

(14)報告第14号 三重国体・スポーツクライミング競技について

開催地の菰野町からの通知で無観客にて競技を行うとのこと。

4. 会務・役員派遣

(2月11日(木)~3月11日(木))

(1)愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会との協議 2月12日(金) 於:オンライン 尾形専務理事、小日向理事

(2)佐賀県国体準備室との協議 2月12日(金) 於:オンライン 平山副会長、尾形専務理事

(3)登山普及情報交換会 2月13日(土) 於:オンライン 八木原会長他

(4)全国理事長会議 2月14日(日)

寄贈図書

会報	福岡山の會	「せふり」No.403
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.735
	(公社)日本山岳会	「山」2020年2月号 No.909、3月号 No.910
	中華民国山岳協會	「中華山岳」<雙月刊> 281
	(特非)日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.81
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」2、3月合併号 第480号
	兵庫山岳連盟	「兵庫山岳」第645号
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.194、No.195
	(公財)日本ゲートボール連合	「ゲートボールNavi」2020年度号
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.240
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」4月号 No.554
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第440号
	(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.54
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第353号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1093
	(公社)日本スカッシュ協会	「SQUASH」Vol.88
ソル・メディア	「CLIMBERS」SPRING # 019	
日本山岳文化学会	「山岳文化学会論集」第18号	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.736	
日本ヒマラヤ協会	「HIMARAYA」No.496	
寄贈本	山本正嘉	「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学 ~トレーニングに普遍的な正解はない~」
	山形県山岳連盟	山形県山岳連盟創立50周年記念登山 「チベットの聖山 ヤラシャンボ初登頂」
広報誌	(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレインニュース」Vol.127、Vol.128
	大阪府立体育館	「季刊 府立体育館」No.136号
雑誌	(株)山と溪谷社	「ROCK & SNOW」Mar.2021 No.091
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」4月号 No.1033
新聞	(株)ネイチャーエンタープライズ	「岳人」4月号 No.886
	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2318号、第2319号、第2320号

- 於：オンライン 八木原会長他
 (5)内閣府火山噴火避難計画手引き作成委員会 2月15日(月) 於：オンライン 尾形専務理事
 (6)第11回富士山利用者負担専門委員会 2月16日(火) 於：オンライン 尾形専務理事
 (7)国立登山研修所スタンダードマニュアル検討委員会 2月24日(水) 於：オンライン 尾形専務理事
 (8)JOC第2回総務本部会 2月25日(木) 於：オンライン 尾形専務理事
 (9)第3回SJC亀岡大会 3月6日(土) 於：グラビティリサーチ サンガスタジアム by KYOCERA 八木原会長、平山副会長、村岡理事
 (10)スポーツドクター代表者会議 3月6日(土) 於：オンライン 六角理事
 (11)役員選考委員会 3月6日(土) 於：オンライン 亀山副会長他
 (12)JOC選手強化本部会 3月9日(火) 於：オンライン 合田常務理事
 (13)国立登山研修所スタンダードマニュアル検討委員会 3月9日(火) 於：オンライン 尾形専務理事
 (14)東京2020オリパラ国内競技団体連絡協議会 3月12日(金) 於：オンライン 尾形専務理事

表紙のこぼれ

今月号は、ブロード・ピーク(8,051m)。1957年オーストリアのM・シュムック、H・ブール、F・ウィンターシュテラー、K・ディンベルガーの4人が、8,000m峰では初めてのアルパインスタイルで挑み、6月9日に全員が初登頂。ブールは、ナンガ・パルバットに次いで2つ目の8,000m峰登頂となる。

ブールはその後、ディンベルガーと2人でチョゴリザに向かい、ラッシュで7,300mまで登ったが、帰途にブールが雪庇とともに崩れ落ち、行方不明となる。

筆者は、1997年に登頂したが、頂上から見るK2の雄姿が素晴らしかった。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

コロナ2年目、少しは付き合い方が上達したのか、大型連休前に第4波が予想されているなか、延期されていた2020東京オリ・パラの聖火ランナーも走りだした。本協会も強化試合が開催され、他のNF代表選考大会も無観客ながらメディアをにぎわしている。やはりスポーツは元気の源だ。五月晴れのなか自由に行動するにはここは我慢のしどころではないだろうか。感染の鎮静化を願う。

(広報担当 水島彰治)

(連載「Mountain World」は、今月休載しました。)



トレランJAPAN
 一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
 品川区西五反田6-3-23-205
 ☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第625号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 令和3年4月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



5月号
発売中

【特集】テント泊で山登り

★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊

年間購読なら12冊

1冊分
おトク!

~~10,560円~~ (税別)
11,616円(税込)

→ **9,680円** (税別)
10,648円(税込)



A4サイズが
入る!

岳人
トートバッグ

丈夫な帆布製で
マイバッグとしても
重宝します。

▶サイズ:幅36×高さ37×マチ11cm

年間購読特典

全国1,900カ所以上で
ご優待!

岳人カード



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ

モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからもお申込みいただけます